

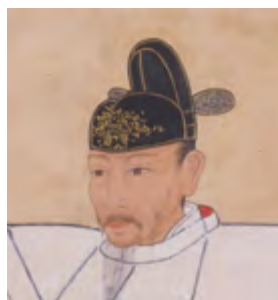
## 温故知新

くうと学だより

図文化課文化係 ☎(23)0156

## 秀吉が宇土にやってきた！

今年のNHK大河ドラマ「豊臣兄弟」は、豊臣秀吉とその弟・秀長が天下統一という偉業を成し遂げる物語です。秀吉は天下統一の過程で、一度だけ宇土を訪れています。



豊臣秀吉

(東京大学史料編纂所  
所蔵模写)

## 1 秀吉による九州平定

織田信長亡きあと、その後継者争いで大きくリードした秀吉は、天下統一を着々と進めていきました。四国を平定した秀吉の目は、さらに西の九州に向けられました。

当時の九州は、豊後の大友氏と薩摩の島津氏という二大勢力が覇権を争っていました。島津氏が勢力を広げ、島津氏による九州統一が目前に迫っていました。これを阻止するため、大友宗麟は秀吉に助けを求め、秀吉は大友・



「九州御動座記」「黒田家譜」をもとに作成

島津両軍に停戦を命じるとともに、島津氏には占領地の放棄と大友氏への返還を命じました。

しかし、島津氏は秀吉の命令に従わなかったため、秀吉は天正14年(1586)に毛利氏や長宗我部氏などの軍勢を島津討伐のため九州に派遣しました。島津氏が抵抗を続ける中、ついに秀吉自身が九州に出陣することになります。

## 2 秀吉の進軍ルート

天正15年3月1日、秀吉は軍勢を率いて大坂を出陣しました。秀吉の軍勢は20万人とも30万人ともいわれ、かつてない規模の大軍勢でした。

秀吉の家臣が書き残した秀吉の進軍記録「九州御動座記」によると、3月28

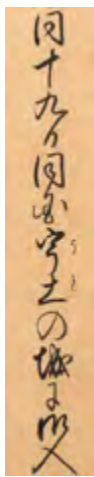
日に九州(小倉)に上陸した秀吉は南に進軍し、4月11日に肥後(熊本県)に入り南関城に到着しました。同13日に高瀬(玉名市)、同16日に隈本城(中央区古城町)、同18日に隈庄城(南区城南町)を経て、同19日に八代の古麓城に到着しています。しかし、「黒田家譜」という黒田家の記録には、秀吉は隈本城を出て4月19日に宇土城に入り、同21日に八代に到着したと書かれています。

また、江戸時代に矢野一貞という久留米藩士が書いた「筑後将士軍談」という史料には、「四月廿日、宇土ノ城へ御動座アリ」(4月20日に秀吉は宇土城に移った)とも記されています。

記録によって日付や進軍ルートに差異がありますが、様々な史料を総合すると、秀吉は隈本城(4月16日着)、隈庄城(同18日着)、宇土城(同19日着)、古麓城(同21日着)というルートを進んだと考えられます。

その後、秀吉は八代から田浦、佐敷、水俣を経て、4月27日に薩摩国出水に到着しました。

## 「黒田家譜」の一節



同十九日同国宇土の城に御入  
(秀吉は4月19日に宇土城に入った)

## 3 当時の宇土城

秀吉が滞在した宇土城は、西岡台と呼ばれる小高い丘陵地に築かれた中世宇土城で、秀吉による九州平定前まで、宇土を治めていた名和顕孝の居城でした。島津氏に味方していた顕孝は、秀吉軍が宇土城を包囲すると、すぐに降伏して宇土城を秀吉軍に明け渡しました。

顕孝は秀吉軍の襲来に備え、城の守りを堅固にするための堀を築こうとしましたが、秀吉軍の襲来に間に合わず、工事の途中で放棄されて未完成だったことが、これまでの市教委による発掘調査で明らかになっています。顕孝降伏後、宇土城を預かったのが、秀吉軍の立花宗茂でした。その後、秀吉は加藤清正を宇土城に残して八代へ向かいました。

降伏して秀吉に許された顕孝は、肥後の新領主となった佐々成政の与力衆の一人となり、引き続き宇土の支配を認められました。

豊臣秀吉が滞在した中世宇土城  
(神馬町)